

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年 5月 5日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676100169
法人名	有限会社 ふれあい企画
事業所名	グループホームふれあい
所在地	鹿児島県霧島市隼人町小浜3070 (電話) 0995-43-0716
自己評価作成日	平成22年4月6日(火)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kagoshima-kaigonet.com">http://www.kagoshima-kaigonet.com</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成22年4月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

始良市の町、錦江湾と桜島が一望できる高台にあり、春には桜、秋にはイチョウや紅葉が色鮮やかな色を見せ昨年出来た東屋で地域の人が利用したりと自然環境に恵まれたホームです。管理者・職員は利用者を人生の先輩として尊敬し「認知症のお年寄りから学ぶ」と言う考えのもとに日々ケアにあたっている。ホームでの一番大きい行事では花見・夏祭りを開催し、利用者、家族、職員、地域住民合わせ約140名が歌を歌ったり、踊りを踊ったりと楽しいひとときをすごしている。

日常生活でも、ホームの園内に畑があり、利用者と一緒に野菜を植え、収穫し楽しんでいる。月に一度、理学療法士がホームに来られ、利用者が安全で安心した生活が送れる様子ハビリにも取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

霧島市と始良市の境にある高台のホームからは、桜島と錦江湾、加治木の町並みが一望できる風光明媚な所である。春には桜、秋には銀杏や紅葉が鮮やかに色づき利用者の目を楽しませ、ホームの周りの畑で作られる野菜から四季を感じることができる。広い敷地には、介護付有料老人ホームとグループホームが4ユニット開設されており、「ふれあいホーム」として一つの共同体ができています。利用者は人生の先輩であるという姿勢を持ち、認知症の症状についての理解を深めた上での対応方法を示した基本理念を基に、各ユニット毎の理念をつくっている。外出支援やレクリエーションはユニット毎で行っているが、ふれあいホームとして週1回、利用者の好きなものを食べる日として利用者の希望を聞き一緒に買い物に行き提供している他、毎月1回理学療法士が各ユニットを回り、利用者の個別機能計画を立てリハビリの方法などを職員に指導しており、利用者も「先生の言うことだからね」と言いながらリハビリに励んでいる姿が見られる。開設から10年が過ぎ、利用者の身体機能を維持し楽しんで毎日を過ごしてもらえよう、職員がさまざまなアイデアを出しながらケアに取り組んでいるホームである。



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	各ユニットに理念を掲示し、毎日の申し送りで理念の唱和をしている。職員も日々の業務において理念を意識しながら取り組んでいる。	各ユニット毎に主任を中心に職員と話し合い理念・目標を立てている。理念・目標を毎朝唱和し共有すると共に、ホールに掲げ日々の生活場面で確認できるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の、初午祭・夏祭り・棒踊り・文化祭などに参加し、ホームの行事でもある花見や夏祭りには地域の方々にも参加してもらっている。そして、歩こう会の方々やウォーキングの方々にトイレや東屋などを気楽に利用してもらっている。	近隣住民とは一緒に花見をしたり、野菜を頂くなど交流をしている。また、地域の文化祭に利用者が作った短歌や切り絵などを出品したり、学生の職場体験の受け入れなども行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の民生委員や公民館長と連携をとり、介護相談を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施し、取り上げられた検討事項について報告を行い、意見をもらいながらサービスの向上に生かしている。	定期的開催された運営推進会議では、行政からインフルエンザ情報を得たり、火災についての意見交換では、通報装置の問題や避難の方法について話し合い、今後のサービスに活かしていけるよう取り組んでいる。	

鹿児島県 グループホーム ふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃から市職員と困った事例について、相談したり、市町村の開催する福祉祭りの準備や大会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	霧島市が主催する健康福祉祭りに参加したり、年3回の介護相談員の受け入れを行うなど、困難事例の相談や情報交換を行いながら、サービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを作り、全体会やミーティング等を実施し、身体拘束に関する研修を行っている。	職員は身体拘束等に関する具体的な行為の禁止を理解すると共に、その意義についても研修等で学んでいる。また、いつでも基本を振り返ることができるようにマニュアルを作成し、見れるようにしている他、ふれあい企画の勉強会でもマニュアルの読み合わせ等を毎月実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作り、全体会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する研修を行い、常に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度が必要なケースでは管理者が対応し、他職員は理解していない。		

鹿児島県 グループホーム ふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をとり、十分な説明をしている。事業所理念や利用料金、退去時の取り決めなど話し合い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に3回介護相談員を派遣してもらい、利用者の相談に乗って頂いている。利用者の立場に立った意見を頂き、運営の参考にしている。そして、意見箱の設置や、家族会を年2回行い、意見や要望などを運営に反映している。	家族会の会長、副会長を選出し年2回の家族会を開催している。また、運営推進会議への出席依頼は全家族へ文書等で行っている他、意見箱や苦情相談受付簿を設置したり、面会等で意見を言いやすい雰囲気づくりにも気を配っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の管理者会議や代表者会議で、管理者、ケアマネ、主任と話し合い意見や提案を聞く機会を設け、職員に申し送ったり、ミーティング時、管理者が出席し、意見や要望を聞くと共に、日頃から職員とコミュニケーションをとるようにしている。	職員の意見や要望は各ユニットの主任を通して、管理者会議、代表者会議で話し合われる他、管理者が各ユニットを回って個別に職員の意見を聞くなど、コミュニケーションを大切にしている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格所得に向けた支援を行い、所得後は本人の意向を重視しながら、職場内で生かせる労働条件作りに努めている。		

鹿児島県 グループホーム ふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修を1～2ヶ月かけて行い、事業所内の研修ではアンケートを取り、基礎からの技術や事例発表など様々な研修を行っている。外部研修でなるべく多くの職員が参加できるよう配慮し、事業所内の研修で発表を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>始良・伊佐地区のグループホーム協議会に加入しており、研修会をしたり、霧島市の行政の声かけでグループホームの交流をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、ご本人の求めていることや不安を理解しようと工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労やこれまでの経過について、話を聞き、次の段階の相談までつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況を確認し、信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげるようにしている。場合によっては地域包括支援センターにつなげるなどの相談をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。職員と一緒にお茶を飲んだり、ご飯を食べたりしながら、世間話をしたり、歌を唄ったり、散歩したり、洗濯物を畳んだり、料理を作ったりと支え合う関係を作っている。		

鹿児島県 グループホーム ふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを細かく伝えることで、家族との信頼関係も深まり、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力をもらい、本人の生きたい所になどに行ける様お願いしたり、ユニットの遠足で昔行っていた場所などに行っている。	家の様子を見に行きたい等の希望があった時には、歯科受診後に寄ったり、昔行っていた場所には、ユニットの遠足で行くなど、家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動を通して、利用者同士の関係が円滑になるよう、職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族には関係を断ち切らないつきあいを大切にしていきたい。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションをよくとり、信頼関係を深め、利用者の本音を聞き、ニーズの把握に努めている。また、意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得ている。	朝の利用者の表情をよく観察し個別に部屋で話しを聞いたり、夜勤時に1対1になると話し易くなる利用者の声に耳を傾けるなど、その都度寄り添うことを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前より本人、家族、関係者などから聞き入れるようにしている。折に触れ、本人や家族にどんな生活をしていたかを聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの1日の過ごし方、心身の状態、残存機能、ADLを把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映している。職員にはミーティングを通し、本人の状態など意見交換をモニタリングで行っている。	サービス担当者会議は家族の希望時間にあわせ設定し困難な家族には電話で意向を確認し、日勤帯の職員が会議に参加している。医師や関係者の意見も取り入れた介護計画を作成し、3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	

鹿児島県 グループホーム ふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、水分量、排泄表などの記録を行いケア記録に日々の暮らしの様子や本人の言葉などを記載している。またケア記録に介護プランのニーズを書いてもらい介護計画の見直し、評価している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、受診や送迎など必要な支援は柔軟に対応し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられるよう、民生委員、消防など、協力しながら意見交換する機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。週に1度訪問診療があり、受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。4ユニットあるため協力医が週1回訪問診療で来所しており、すべて看護師が対応し情報を提供し服薬管理もしている。	

鹿児島県 グループホーム ふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がおり、健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいないときも看護職員と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために、医師と話す機会を持ち、出来るだけ早急に退院出来るように努めている。また、入院されたときも、頻繁に職員が顔を出すようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や緊急時のあり方などホームでの対処法を代表者会議などで話し合っている。	看取りについての指針を作成し家族にも説明している。協力医や看護師、職員、家族との情報も共有できるようにしているが今のところ家族から看取りの希望はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、年1回応急手当の勉強会している		

鹿児島県 グループホーム ふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年3回の、地震災害避難訓練を夜間想定でしている。また避難経路の確認や消火器の使い方、通報装置の使い方などを定期的に行っている。	消防署の指導の下に年3回の夜間、地震想定避難訓練を行っていたが、今年度からは3ヶ月ごとの訓練を予定している。場所的に他の市町村に近いが通報は霧島市のため、近隣に住む職員での対応も考慮している。	近隣住民も高齢で協力が厳しい現状であるため、近隣に住む職員も含めた訓練や夜勤者5名が協力し合い助け合うためのアイデアを出しながら訓練を充実させて頂きたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人研修、全体会議、ミーティングなどの折に職員の意志の向上を図ると共に、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	プライバシーの勉強会は、新人教育、全体研修、各ユニット研修などで行い、利用者の誇りを傷つけない対応、態度などを指導している他、記録物の管理も適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押しつけず、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、業務より利用者の声を大事にして希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の着る洋服を選んで頂いたり、行事のあるときは、オシャレを楽しんでもらえるように取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回、メニューは利用者と相談しながら作り盛りつけ、片付け、調理も利用者と共に行い、職員と利用者がテーブルを囲んで楽しく食事できるように雰囲気作りも大切にしている。	1週間に1回は利用者の食べたい物を食べる日とし、利用者は楽しみにしている。利用者は力量に合わせて、盛り付け、下膳の手伝い、味見、野菜の下ごしらえなどを行っている。	

鹿児島県 グループホーム ふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。栄養士による栄養バランスも完備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じ、職員が見守ったり、介助している。就寝前には入れ歯の洗浄も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記録し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導している。リハビリパンツだった方も下着に尿取りパットで対応している。また失敗した場合も本人が傷つかないように配慮している。	利用者の排泄時間を把握し、時間毎に誘導し記録している。日中はトイレでの排泄を促し、夜間はポータブルトイレを使われる利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、散歩、体操、家事活動など、身体を動かす機会を作り、自然排便が出来るよう取り組んでいる。		

鹿児島県 グループホーム ふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴を拒まれる利用者に対して、声かけや時間、人をかえて行っている。また利用者のその日の希望を確認し、入って頂いている。	1週間に2回の入浴支援を行っている。拒否する方には、タイミングを見て毎日でも声かけしている。脱衣所では音楽をかけたり、入浴剤を入れたり楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムをとともえるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮しゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋のコピーを整理し職員が内容を配慮できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。食事作り、お盆拭き、洗濯物畳み、洗濯物干しなどの手伝いをお願いしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日、日常的に散歩に出かけ遠足やドライブでは希望を聞き、お弁当などを持って園外へ出かけている。	敷地が広く、畑もあり東屋も作りいつでも散歩ができる環境を整えている。また、利用者の希望で家の様子を見に行ったり、昔よく行っていた場所へ遠足、ドライブ、季節行事の初午祭を見に行ったりと希望に沿って支援している。	

鹿児島県 グループホーム ふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の協力得て、少額のお金を持っている人もいます。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族等に電話のしやすい雰囲気作りや年賀状などを出すための支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアの飾り付けや家具の配置など利用者が居心地の良い場所であるように工夫している。</p>	<p>4ユニットの共用空間はそれぞれ違う間取りとなっている。それぞれの特徴を活かし、季節毎の飾りつけで模様替えをしたり、絵画を飾ったり、ソファやベンチを利用して思い思いの場所で過ごせるようにしている。換気や室温調整にも気を配っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールには長いすを置き1人で過ごしたり、玄関前に長いすや東屋を造り利用者同士でくつろげるスペースを作っている。</p>		



鹿児島県 グループホーム ふれあい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みの物等を生活スペースに合わせ、安心して過ごせるように配慮してある。	畳に布団、自分のベット、タンス、衣装ケース、テレビなどを持ち込み、大切にしている絵画や時計、写真や位牌などが置かれ利用者が安心して生活できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境がてきしているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない



## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームふれあい

作成日 平成 22年 5月 24日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	管理者以外の他スタッフが権利擁護に関する制度の理解ができていない	成年後見制度について理解する	月一回の職員研修、ミーティングで成年後見制度の勉強会を開催し、理解を深める	6ヶ月
2	27	プランに沿った内容になっていない時や、気づきの書き漏れ等が時々見られる	正確に記録が書け、介護保険の制度やケアプランを理解する	月一回の職員研修やミーティングで、記録の書き方や介護保険制度、ケアプラン、アセスメント、モニタリングの流れを理解する	6ヶ月
3	10	運営推進会議による他職種の出席ができていない	他職種による出席と家族代表だけでなく、ご御家族の参加も促す	年間の運営推進会議の計画を立て、他職種やご家族の参加を促す	6ヶ月
4	35	近隣に住む、職員も含めた訓練ができていない。	ふれあい企画として電話連絡網を構築し、夜間想定 of 避難訓練で入居者を上手く誘導することができる	ふれあい企画の電話連絡網の構築。夜間想定 of 避難訓練で、全職員が集まり入居者誘導の動きの仕方などを話し合いスムーズに誘導できるようにする。そして、小浜消防団と地域住民の連携	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設理念、ユニット理念を掲示し、毎日の申し送りで理念の唱和をしている。職員も日々の業務において理念を意識しながら取り組んでいる。	※複数のユニットの外部評価は最初のユニットの評価票に記入されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に気軽に挨拶を交わしたり、野菜を頂いたりしている。地域の方が棒踊りをしてくれたり、夏祭り、福祉祭り、文化祭に利用者と参加したり作品を展示している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の民生委員や公民館長と連携を取り、介護相談を行っている。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一年に6回、運営推進会議を開催し、ホームでの行事、運営の取り組み、また取り上げられた課題についての報告を行い意見を聞きながらサービスの質の向上に努めている。		
		○市町村との連携	霧島市主催の健康福祉祭りや認		

鹿児島県 グループホームふれあい

5	4	市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	知症の研修会などに参加している。また申請や運営サービスの課題などの相談をして意見をもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会やミーティングなどで身体拘束についての知識を学び身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会やミーティングで高齢者虐待法についての研修をし、絶対に行ってはならないこととして、職員全員が虐待防止マニュアル資料を確認し理解し取り組みを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度が必要なケースは管理者が対応し他の職員はあまり理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は家族や入居者が十分に納得できるまで説明し署名してもらっている。事業所理念、利用料金、苦情処理、医療連携体制、退去時の取り決めなど理解と納得を得ている。		
		○運営に関する利用者、家族等意見の反映	年に3回、介護相談員を派遣してもらい、利用者の相談に乗ってもらっている。		

鹿児島県 グループホームふれあい

10	6	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	らい、利用者の相談に乗って頂き、利用者の立場に立った意見をもらい、運営の参考にしている。また意見箱の設置や家族会を年に2回開催し、意見や要望などを運営に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月代表者会議で管理者、ケアマネ、主任と話し合い、意見交換や提案をし職員にも申し送りをしている月1回の全体会やミーティング時に、管理者を交えて意見を聞いている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフの資格所得に向けた勉強会をするなどの支援を行っている。所得後は本人の意向を重視しながら、職場内で生かせる労働環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を1～2ヶ月かけて行い、事業所内の研修ではアンケートを取り、基礎から技術、事例発表など様々な研修を行っている。外部研修では、なるべく多くの職員が参加できるように配慮し事業所内の研修で発表を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良・伊佐地区グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会をしたり、霧島市の行政の声かけでグループホームの交流をしている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援



鹿児島県 グループホームふれあい

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に自宅や病院を訪問し、事前面談で生活状態を把握し、どのような生活を送りたいのか本人の要望を聞き、添えるようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>今まで介護してきて困っていることは何か、何を希望しているのかなどを親身になって聞いている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時本人や家族の思い、状態を確認し改善に向け支援の提案、相談を繰り返す中で、信頼関係を築き、必要なサービスにつなげるようにしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者を人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者によくのことを学ぶことが多い。またそういった場面を多くもてるように工夫し、声かけに配慮している。</p>		
19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の様子や職員の思いを細かく伝えることで家族との信頼関係も深まり一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p>	<p>家族の協力をもらい、本人の生</p>		

鹿児島県 グループホームふれあい

20	8	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	きたい所や馴染みの人に会いに連れて行ってもらえるように声かけをしている		
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も一緒に多くの会話を持つようにしている。役割活動を通じて、利用者同士の関係が円滑になるよう、職員が調整役になっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービス事業者に情報を提供したり、継続的な関わりを必要とする家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、声かけ、コミュニケーションを取り、言葉や表情などから利用者の本音を聞き、ニーズの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家族や入院先、居宅ケアマネなどから情報提供をもらっている。入居してからも本人や家族からどんな生活をしたいかを聞いている。		
		○暮らしの現状の把握	職員は入居者を常に観察し、気づいたことは職員同士連携を取りケアを		

鹿児島県 グループホームふれあい

25	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	するように努力している。出来ないと思っていたのが事が出来たり出来ていたことが出来なかったりするのでその変化に気づくよう努力している。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を尊重した上で家族の希望も合わせて介護計画を立てている。またその計画を作るにあたっては担当スタッフで話し合い、医師の意見書も参考にした上で作成している。		
27	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアプランに沿った内容を記入している。それ以外にも気づきや体調の変化などを描くようにしている。食事量、水分量、排泄回数等の把握、より状態の変化に対応している。またケア記録に介護プランのニーズを書き、介護計画の見直し、評価している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、受診や送迎など必要な支援や、外泊や外出、面会の機会を多くもてるように支援している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう民生委員、消防など協力しながら意見交換する機会を設けている。		
	○かかりつけ医の受診支援	事業所の協力医の他、利用者や家族の希望のかかりつけ医と		

鹿児島県 グループホームふれあい

30	11	<p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族の希望に沿って対応している。月に一度訪問診療があり、受診や通院は、本人や家族の希望に応じて対応している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>入居者の健康状態や状態の変化にはスタッフ全員で共有し、ユニットの看護師や全体の看護師に連絡し、必要に応じて受診や看護を受けられるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は面会をするようにしており、病棟看護師やDrに本人の状態を確認し早急に退院出来るようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や緊急時の医療連携のあり方やホームでの対処法を話し合い、家族に事業所で出来ること、出来ないことを伝え共有している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全体会での勉強会やミーティング、研修などで学んでおり、実践力を身につけている。</p>		
		<p>○災害対策</p>	<p>消防署の協力を得て、年3回の避難訓練を実施している。</p>		

35	13	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を夜間想定で行っている。また避難経路の確認や消火器の使い方、通報装置の使い方などを定期的に行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることをいつも自覚し、誇りを傷つけない介護に取り組んでいる。また個人情報や流さないように勉強会やミーティングなど話し合いをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が自己決定が出来るように声かけに工夫して否定はしない。出来るだけ、本人の思いが叶えられるような援助をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて本人の思いを大切に支援している。無理強いはしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の着る洋服を選んで頂いたり、行事のあるときは、オシャレを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回、利用者と一緒に献立を考え、買い物を行っている。調理は職員が行っているが、下ごしらえ、お盆拭き等は手伝ってもらっている。		

鹿児島県 グループホームふれあい

41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量はその都度確かめて記録に残し、少ない人には本人の好みの物や栄養補助食を勧めている。水分摂取も足りていない人は、記録に残し、一日の量を把握している。また栄養士による栄養バランスも完備している。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、歯磨きの声かけを行いその人の力に応じて職員が見守りや介助をしている。週1回ポリデントで義歯洗浄している。</p>		
43	<p>16</p> <p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し随時支援している。昼間は全員トイレを使用し、なるべく失禁しないように早めの声かけ誘導している。</p>		
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘にならないように工夫している。ヨーグルト、牛乳や芋など繊維のある植物や水分も多く取るように支援している。またラジオ体操など体を動かすなど自然排便が出来るように取り組んでいる。</p>		
45	<p>17</p> <p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>週2回の入浴日にはあるが、ゆっくり湯船につかって頂いている。職員の声かけにより洗髪、洗身を本人に出来ることをして頂き、個々に応じて入浴の支援をしている。</p>		
	<p>○安眠や休息の支援</p>	<p>なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めて</p>		

鹿児島県 グループホームふれあい

46	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いる。また一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮し、ゆっくり休憩が取れるように支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が一人ひとりの服用している薬の目的や副作用について理解し、服薬の支援、症状の変化の確認をしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえよう、出来る仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。お盆拭き、洗濯物干し、洗濯物畳み、テーブル拭きなどの手伝いをお願いしている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は散歩や外気浴に出かけ、遠足やドライブでは希望を聞き戸外に出かけている。また自宅への外出・外泊の声かけも支援している。		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は個人のお金は所持していないが、本人の希望によりお酒、刺身など嗜好品を買っている。		
	○電話や手紙の支援	電話の要望があるときけ 自由		

鹿児島県 グループホームふれあい

51	<p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話や手紙のやり取りは、口に出して電話をしている。手紙は、家族からは届くが、ほとんどの入居者が書くことが出来ない。</p>		
52	<p>19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールは狭いが台所がすぐそばにあり野菜を切る音や煮る臭いなどがすぐ近くで感じる事が出来る。廊下は広く歩行訓練をかねて窓から畑や山を眺めて楽しんでいる。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールや廊下にソファを置いてあり、気の合う同士で座っている。自席も気の合う同士で座れるようにしている。</p>		
54	<p>20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使っていた家具や寝具、大切にしていた者等を居室に置くことで安心して生活出来る環境を提供している。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下やトイレには手すりが付けて安全に動けるようにしている。また居室や共有の空間には誰でも分かる様に目印を付けて、自立した生活が送れるように工夫している。</p>		



鹿児島県 グループホームふれあい

鹿児島県 グループホームふれあい

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1
		○	2
			3
			4
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1
		○	2
			3
			4
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1
			2
		○	3
			4
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1
		○	2
			3
			4
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1
			2
			3
		○	4
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1
			2
			3
			4
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1
		○	2
			3
			4
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1
		○	2
			3

			4
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1
		○	2
			3
			4
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1
		○	2
			3
			4
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1
		○	2
			3
			4
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1
		○	2
			3
			4
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1
		○	2
			3
			4



ほぼ全ての利用者の
利用者の2/3くらいの
利用者の1/3くらいの
ほとんど掴んでいない
毎日ある
数日に1回程度ある
たまにある
ほとんどない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての家族と
家族の2/3くらいと
家族の1/3くらいと

ほとんどできていない
ほぼ毎日のように
数日に1回程度ある
たまに
ほとんどない
大いに増えている
少しずつ増えている
あまり増えていない
全くいない
ほぼ全ての職員が
職員の2/3くらいが
職員の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての家族等が
家族等の2/3くらいが
家族等の1/3くらいが
ほとんどいない





自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設理念・各ユニット毎の理念をよく目につく所に貼っており、朝の申し送り時に唱和し、その意味を再確認の上ケアに活かすように努力している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームは過疎地域にあり、地域住民も高齢化しているため日常的な交流は出来にくい状況にある。外の休憩所を一般の方に自由に使ってもらったり、トイレ等も提供している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議やふれあい行事に参加する民生委員をとおして認知症に関する理解を地域の方々に伝えてもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており民生委員や家族からの視点を聞かせてもらったり、市・包括からの情報をもらったりしている。またホームの活動状況・行事・ヒヤリハット等についても報告している		
		○市町村との連携	市主催の健康福祉祭りの準備や大会に参加している。運営の事		

※複数ユニットの外部評価は最初のユニットの評価票に記入されています。

5	4	市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	ホームにシフトしながら、定例ミーティングを共有しながら直面しているサービスの課題分析に向けて協議し、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関を含めいっさい施錠等はしていない。夜間は安全のために施錠している。身体拘束は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については研修等でも繰り返し学んでおり、職員全員が理解出来ている。虐待は見られていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度に該当する入居者がいない事もありこの制度に対する職員の理解は十分ではない		
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には十分時間をかけて説明を行い家族の不安解消に努めている。また事業所でできること、できないことを分かりやすく説明している		
		○運営に関する利用者、家族等意見の反映	意見箱は準備されているがほとんど意見は入っていない。年3回		

10	6	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	の家族相談員来所時に入居者が直接伝える事もある。家族面会時の言葉から聞き取ることもあり、いずれにしても速やかに対処し解決できるよう努力している。		
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の代表者会議等で意見を述べる機会が提供されている。他にもミーティング時に管理者も参加してもらい、様々な問題へのアドバイスをもらうようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得にむけた支援をおこない、資格取得後は本人の意向を重視しながら、職場内でいかせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を1～2ヶ月かけて行っている。事業車内の研修ではアンケート結果により基礎から技術、事例発表など様々な研修を行っている。外部研修にも多くの職員が参加できるよう配慮し、事業所内研修でも発表の機会をもうけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良・伊佐地区のグループホーム連絡協議会に加入しており、研修会をしたり、霧島市の行政の声かけでグループホーム同士の交流をしている		

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用の前には必ず本人との面会をおこない、心身の状況や本人のおもいを受け止め、不安がないようにしている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用にいたるにあたっての経緯を聞く中で、何に悩み何に困っていたか等を理解し家族の思いを受け止めるようにしている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>とりあえず必要と思われるニーズを把握しケアプランを作成、その後本人の状態をしっかりと見極めたうえで再度プランを作成している</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>スタッフも入居者も大家族の一員として生活しており、それぞれの役割に応じた仕事をしてもらいながら共に生活している</p>		
19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居したことで入居者と家族との関係が疎遠にならないよう、電話にて入居者の状況を伝えたり、月一回のお便り等で近況を報告するようにしている。面会時に散歩をしてもらったり、一緒に洗濯物たたみ等することもある</p>		
	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p>	<p>なじみの人たちも高齢になっており徐々に回数が減ってきて</p>		

20	8	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	おっ休べにくる回数も減つてきているが、来られた時にはその時間をたいせつに過ごせるよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員との関わりが強くなりがちの中、入居者から入居者への関わりが出来る様そっと支援している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とする入居者や家族にはその後も付き合いを大切にする支援を行っている		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活をよく知ること で、ひとりひとりの気持ちに添えるように、また出来るだけ近づけるように聞きながらケアを行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	折に触れ本人や家族からこれまでの情報を聞き取り、介護サービスに活かすようにしている。		
		○暮らしの現状の把握	朝のバイタル時に体調の確認を行っている。また朝夕の申し送		

25	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	りにて入居者の情報を共有しており、一日の生活の中でそれぞれに合ったレクや作業等を取り入れている		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを基に作成した介護計画案をもとにスタッフ全員と話し合い、家族が参加できない時は電話で希望を聞くなどして介護計画を作成している		
27	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	しっかりとした記録の出来ている職員もいる一方で、口頭での報告にとどまり記録に残されていない状況も見受けられており情報の共有化が完全にはできていない		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の変化に応じて職員間で話し合い、声を掛け合っている。また月1回のミーティング等でも全員で話し合いのうえケアに取り組んでいる		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアに来てもらったり、また初午祭や太鼓踊り等に出かけたりしている。散歩時には農家の方々との会話等を楽しんでいる、		
	○かかりつけ医の受診支援	事業者の協力医の他、入居者が		

30	11	<p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医での診療を受けられるよう支援している。必要に応じて訪問診療も取り入れている</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ユニットに看護職員がおり常に入居者の健康管理や状況変化に応じた支援を行っている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には医療機関に情報提供を行っている。また面会をまめにおこない身体状況の把握に努めている。必要に応じて担当看護師やソーシャルワーカーと連絡を取り合っている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>代表者会議等で重度化時の対応について話会っており、緊急時には協力医とも協同し支援に取り組んでいる</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>月1回の勉強会で研修および実習等をおこなっており緊急時の対応がスムーズに出来る様取り組んでいる</p>		
		<p>○災害対策</p>	<p>消防団の協力を経て年2回の避難</p>		

35	13	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の協力を経て年3回の避難訓練を定期的に行っている（夜間想定2回）		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の気持ちを理解し上からの物言いにならないよう気をつけている。排泄時の声かけの仕方や排泄時のドアを閉める等の配慮を行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身が思っている事を口に出しやすいような雰囲気づくりを工夫している。なるべく自己決定の場がふえるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われた結果、入居者の希望にすぐに応えられない事も多々あるがその時には出来ない理由を分かりやすく説明するようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	家族付き添いで美容院に行ったり、息子さんが気に入る髪型に散髪されたりしている。それ以外の方は2ヶ月に1回程度職員によるカットサービスを行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者が重度化しており、食事の準備や後片付け等一緒に出来る方が少なくなっている。その中で出来る方にはお盆ふきや下膳等してもらっている。		



41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量はチェック表にて把握しており、水分は飲み残しが無いよう確認している。水分拒否のある方については更に水分表を作り脱水にならないよう支援している</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>出来る方は自分でするように声かけし、出来ない方はその人の程度に応じた介助している</p>		
43	<p>○排泄の自立支援</p> <p>16 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>昼間は全員トイレを使用しなるべくトイレでの排泄が出来る様支援している。排泄確認表でそれぞれの排泄パターンを把握している</p>		
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便の出やすい食物を工夫したり、軽く運動を促したり腹部マッサージを行ったりして定期的な排便を促している</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>17 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>基本的には曜日が決まっているが（週2回）その日にとらわれず本人にあわせた支援を行っている。</p>		
	<p>○安眠や休息の支援</p>	<p>なるべく日中の活動を促し、生</p>		

46	一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	活リハムを整えるより又援し ている両下肢の浮腫が見られる 入居者も多い為昼食後は2時間 程度の昼寝タイムをもうけている		
47	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	職員1人ひとりが入居者本人の 病歴や薬の内容について把握す るよう取り組んではいるが十分 ではない		
48	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活暦や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている	パットに字を書いてもらったり 、洗濯たたみ等をすすんで行 う等、そのことが生き甲斐につ ながっている一方で、体力低下 や重度の認知症状によりでき ていない入居者もある		
49	18 ○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる ように支援に努めている。また 、普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。	天気の良い日は外に出て外気 浴を楽しむ支援を行っている。 家族との外出を定期的にして いる入居者もいる一方で、外 出を好まない入居者もいる。		
50	○お金の所持や使うことの支 援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している	ほとんどの方がお金の管理を 自分で出来ない。買い物希望 がある時は、小遣い程度を家 族より預かり職員と一緒に購 入している		
	○電話や手紙の支援	家族からの電話に出てもらった		

51	<p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>り、こちらから電話を入れることもある。家族から届いた手紙は代読し、自室の一番目につく壁に貼るようにしている</p>		
52	<p>19 ○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やホールに散歩時に摘んだ花を飾り季節を感じてもらえるよう心掛けている。換気をしたり、テレビ音の調節に気を配るなど入所者がくつろいで過ごせるように支援している</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールでの座る位置は混乱を防ぐ為に一応決められているが、その時々状況に応じて臨機応変に対応している。本を読みたい人、話を楽しみたい人、仕事をしたい人が気に入った場所ですごせるよう支援している</p>		
54	<p>20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家で使っていた身近な品物や家族の写真等を飾って、安心して生活出来るよう支援している</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者1人ひとりにあわせて、無理せず出来そうなことで生き甲斐につながるような支援を心掛けています。</p>		





## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1
		○	2
			3
			4
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1
			2
			3
			4
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1
		○	2
			3
			4
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1
		○	2
			3
			4
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1
			2
		○	3
			4
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1
		○	2
			3
			4
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1
		○	2
			3
			4
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1
		○	2
			3
			4

			4
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1
			2
		○	3
			4
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1
		○	2
			3
			4
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1
		○	2
			3
			4
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1
		○	2
			3
			4
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1
		○	2
			3
			4





ほぼ全ての利用者の
利用者の2/3くらいの
利用者の1/3くらいの
ほとんど掴んでいない
毎日ある
数日に1回程度ある
たまにある
ほとんどない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての家族と
家族の2/3くらいと
家族の1/3くらいと

ほとんどできていない
ほぼ毎日のように
数日に1回程度ある
たまに
ほとんどない
大いに増えている
少しずつ増えている
あまり増えていない
全くいない
ほぼ全ての職員が
職員の2/3くらいが
職員の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての家族等が
家族等の2/3くらいが
家族等の1/3くらいが
ほとんどいない



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設理念 認知症高齢者への共通理念（その人が何をかんがえているのか内面・心・その人の物語を理解するケア）そして家族や地域住民との交流軒会を作り、取り組みを実践する。ユニット独自の理念（恵まれた自然環境の中で地域の皆様に見守られ、穏やかな毎日になります。）	※複数ユニットの外部評価は最初のユニットの評価票に記入されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に散歩時、気楽に挨拶を交わしたり、野菜を頂いたりしている。地域の方が棒踊りを踊りに来てくれたり、夏まつり、福祉祭り、ミニ文化祭に利用者と参加したり、作品を作り展示している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の民生委員と運営推進会議や電話で困ったお年寄りのあった施設の紹介をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一年に6回、運営推進会議を開催し、地区の民生委員、家族代表2名、包括支援センターの職員、霧島市役所隼人支所の職員、事業所の管理者、計画作成担当者等が出席して事故やヒヤリハットについて、ホームの行事の取り組み等話し合いサービスの質の向上に努めている。		
		○市町村との連携	市の主催する健康福祉祭りの準備や大会にも参加している。運		

5	4	市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営の実態を共有しながら直面しているサービスの課題分析に向けて協議し、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて全体会議で研修し、正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待、身体的虐待について研修をして、絶対に行ってはならないこととして、職員全員がマニュアル資料を確認の上、理解し、取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度が必要なケースは管理者が対応し、他の職員は理解していない。研修会に参加し、学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明を行い、疑問を尋ね次に契約書を読み上げて、詳しく説明して、理解・納得をされてから署名してもらう。基本的な考えとして「人格の尊重」と利用料金、苦情処理、医療連携体制の理解と納得を得ている。		
		○運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者の言葉や、態度から思いを察する努力をし、利用者本位を心掛けてい		

10	6	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	る。その時々の利用者の不安、意見等は話し合いを行い、特定の職員の中に埋もれないようにしている。ホームの玄関先に「ご意見箱」を設置し、又苦情処理の第3者委員も任命していつでも応じるようにしている。面会時も意見や要望等がないか尋ねている。		
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、代表者会議（ケアマネジャー、主任）を開催して意見交換や提案をして運営に反映している。毎月、職員全員参加で勉強会をして意見等を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら、職場内で行かせる労働環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を1～2ヶ月かけて行い、事業所内の研修ではアンケートを取り、基礎から技術、事例発表など様々な研修を行っている。外部研修でなるべく多くの職員が参加出来るよう配慮し、事業所内の研修で発表を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良・伊佐地区のグループホーム連絡協議会に加入しており、研修会をしたり、霧島市の行政の声かけでグループホームの交流をしている。		

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所される前に本人に合い、どのようにどんな生活を送りたいか話をよく聴き希望に添うようにしている。入所後も本人が困っていること、不安なこと、要望等聞き、本人が安心して暮らせるよう努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>自宅での介護をして苦勞されていることや今後の介護の不安を抱いている事等に親身になって話を聞いている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時、本人や家族の思い、状況を確認し、改善に向け支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築き、必要なサービスにつなげるようにしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者を人生の先輩であるという考えを職員が共有し、普段から利用者によくの事を学ぶことが多い。又そういった場面を多くもてるように工夫し声かけに配慮している。</p>		
19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の様子や思いをきめ細かく伝える事で、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えて行く為の協力関係を築ける事が多くなっている。誕生会など行事に家族を誘い共に本人との絆を深めている。</p>		
	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p>	<p>家族は馴染みの人や場所に連れ</p>		

20	8	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に馴染みの人や、物事に迷って行ってもらえるよう声かけをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報を連携し全ての職員が共有できるようにしている。心身の状態や気分や、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守り、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のユニットに移動されても時々会いに行ったり、必要に応じて本人、家族の相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声を掛け、コミュニケーションをよくとり、言葉や表情などから利用者の本音を聞き、ニーズの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者などから聞き取るようにしている。利用後も折に触れ、本人や家族にどんな生活をしていたかを聞いている。		
		○暮らしの現状の把握	生活、心理面の視点や出来ない		



25	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ことよりもできることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族の要望を聞き、職員から情報収集し、介護計画の作成に活かしている。		
27	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等記録している。職員の気づきや利用者の状態変化は個々のケア記録に記録し、職員間の情報共有を図っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に支援し、個々の満足を高めるように努力している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員、消防署の避難訓練、救急訓練をする機会を設けている。		
	○かかりつけ医の受診支援	事業所の協力医の他、利用者からの		

30	11	<p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療にきてもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員は配置されていないが、いつでも相談できる看護職員がおり、常に利用者の健康管理や状況変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間は介護職員の記録を基に確実な連携を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、洗濯物等家族の都合がつかない人には事業所の職員が見舞いに行き、支援している。又、家族とも情報交換しながら回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>代表者会議で「出来ること。出来ないこと」を話し合っている。緊急時には協力医とも共同し支援に取り組んでいる。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全体会議で研修し、実践力を身につけている。</p>		
		○災害対策			

35	13	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て、年3回、避難訓練を定期的に行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては馴れ合いにならず敬語を使い、記録に関しては利用者同士の対話を書く時はイニシャルで書いたり、申し送りの時は本人に気付かれないようにイニシャルで行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望等は最後まで話を良く聞き、出来ること、出来ないことを詳しく説明したり、又行動を共にすることで、本人の判断、医師により理解や納得が得られている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけし、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者に着る洋服を選んで頂いたり、行事のある時はおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。又毎月美容院に散髪に行っている方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1回（火）利用者と一緒に献立を考え、買い物に行っている。調理は職員が行っているが下ごしらえ、お盆ふきなど手伝って頂いている。		

41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎月1回体重を計り、栄養士による量を基準に一人ひとりの量、栄養バランス、水分量もチェックし1日を通して確保出来るようにしている。本人の希望によりお酒の好きな方は刺身など付けて楽しんで頂いている。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後自分で出来る人は、声かけし、口腔ケアをしている。出来ない人は、本人の力に応じた口腔ケアをしている。週1回ポリドントで義歯洗浄している。</p>		
43	<p>○排泄の自立支援</p> <p>16 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>尿意のない利用者にも、2時間おきに声かけ、誘導することにより、トイレで排泄出来るよう支援している。全員下着か、下着に尿取りパット使用で排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>		
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェックをし、便秘をなくすよう朝冷たい水を飲むようにし、冷たい牛乳、ヨーグルトなど飲食物の工夫や散歩、体操をし、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>17 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>週2回の入浴日であるが、ゆっくり湯船に浸かって頂いている。職員の声かけにより洗髪、洗身を本人の出来ることをして頂き、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>		
	<p>○安眠や休息の支援</p>	<p>なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるようにしている。</p>		

46	一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	スムを整えるように努めている。 又一人ひとりの体調や表情、希 望等を考慮してゆっくり休息が 取れるように支援している。		
47	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	職員が一人ひとりの使用してい る薬の目的や副作用について理 解し服薬の支援、症状の変化の 確認に努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活暦や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	日常生活では一人ひとりの力を 発揮してもらえる様出来る仕 事を頼み、洗濯物を干したり、 たたんだり、片つけたり、お盆 拭きをしたりして出来た達成感 を味わっている。		
49	18 ○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう に支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	天気の良い日は日常的に散歩、 外気浴、買い物、ドライブ等に 出かけている。遠足やレクリエ ーションで戸外に出かけたり、 家族と連携して家族と外出して いる。季節の行事や地域のお祭 りを見に行くことにより楽し んでいる。		
50	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している	一人ひとりお金を所持してい ないが本人の希望によりお酒や 刺身等買っている。		
	○電話や手紙の支援	職員が利用者の状況、状態、ス ナップ写真を手紙で毎日発信し ている		

51	<p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ノ子息を子視し毎月先回している。利用者の希望により家族の了解のもと電話をかけたり、家族からの電話を取り次いだり、年賀状を出すための支援をしている。</p>		
52	<p>19 ○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者にとって、音、温度、湿度、光等配慮し生活感や季節感を取り入れ居心地よく過ごせるような工夫をしている。季節の花を飾ったり、季節の飾り付けをしている。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居場所を工夫し、ホールで居心地よく過ごせるような雰囲気づくりをしている。</p>		
54	<p>20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の使い慣れたものや好みものを置き居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりをつけ、安全に動けるようにしている。分かることを活かして、トイレ、浴室、本人の部屋など目印をつけて、自立した生活が送れるように工夫している。</p>		







## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1
		○	2
			3
			4
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1
			2
			3
			4
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1
		○	2
			3
			4
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1
		○	2
			3
			4
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1
		○	2
			3
			4
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1
			2
			3
			4
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1
			2
			3
			4
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1
		○	2
			3

			4
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1
			2
		○	3
			4
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1
		○	2
			3
			4
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1
		○	2
			3
			4
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1
		○	2
			3
			4
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1
		○	2
			3
			4



ほぼ全ての利用者の
利用者の2/3くらいの
利用者の1/3くらいの
ほとんど掴んでいない
毎日ある
数日に1回程度ある
たまにある
ほとんどない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての家族と
家族の2/3くらいと
家族の1/3くらいと

ほとんどできていない
ほぼ毎日のように
数日に1回程度ある
たまに
ほとんどない
大いに増えている
少しずつ増えている
あまり増えていない
全くいない
ほぼ全ての職員が
職員の2/3くらいが
職員の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての家族等が
家族等の2/3くらいが
家族等の1/3くらいが
ほとんどいない

